

オオタカの繁殖状況アンケート調査の報告と調査協力のお願い

オオタカの繁殖状況アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。生息状況調査に77件、繁殖状況調査に571件の情報をお寄せいただきました。その結果を簡単に集計いたしましたので、その結果をお知らせいたします。

繁殖状況

オオタカの繁殖成績について地域別に集計しました。まずヒナを巣立たせた巣の割合を見てみると、東北地方がやや高い以外は、どの地域も概ね80%程度と違いはありませんでした。

次に、巣立ちヒナ数を見てみました。繁殖に成功した巣のみ、繁殖に失敗した巣も含めた全巣の平均巣立ちヒナ数を地域別に求めてみたのですが、繁殖成功率と同様に東北地方がややよく、中国九州地方がやや悪い以外は、全巣では2羽をやや下回る程度、成功した巣だけで見ると、2羽をやや上回る程度でした（図1）。

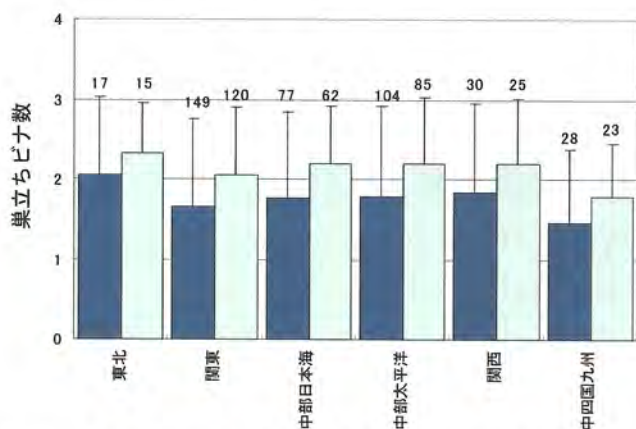


図1. 各地のオオタカの巣立ちヒナ数の違い。左の棒が全巣での平均巣立ちヒナ数、右の棒が繁殖に成功した巣での平均巣立ちヒナ数。平均と標準偏差を示した。上の数字は調査巣数。

繁殖失敗の原因

繁殖に失敗した原因は、不明のことが多く、それらは自然要因の失敗のことが多いと思われますので、かなり偏りのあるデータではありますが、繁殖失敗の原因がわかったものの中では、密猟とカラスによる影響がもっとも多く、10例記録されました。密猟に人の出入りや工事などといった、人間による繁殖失敗を合わせると、繁殖失敗の約

半数を占めました。実際は、人為的な原因による失敗はここまでは多くないのだとは思いますが、今でも密猟は繁殖失敗の重要な原因になっているようです（図2）。

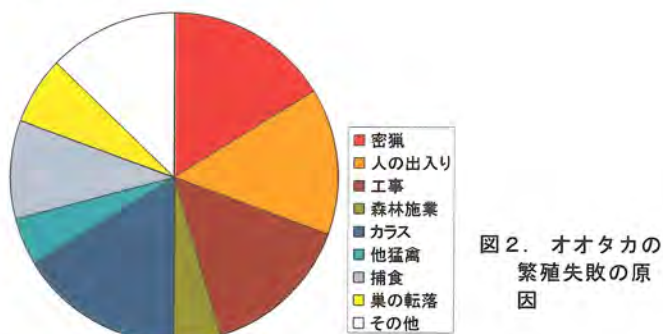


図2. オオタカの繁殖失敗の原因

繁殖時期

オオタカの巣立ち時期を地域別にまとめてみました（図3）。東北地方、関東地方、中部太平洋側は、いずれも6月下旬に巣立つものが多いことがわかります。それに対して、中部日本海側は7月上旬がピークとやや遅く、関西地方はさらに遅く、7月中下旬ピークになっていました。それ以南の地域は調査数が少なく明確でないものの、中国地方は関西と近いように見え、四国九州地方は、6月上旬にも巣立ちが記録されているなど、より早いようです。

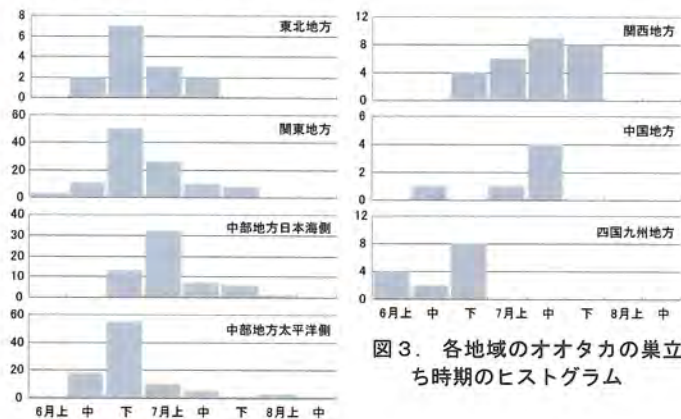


図3. 各地域のオオタカの巣立ち時期のヒストグラム